

雜 錄

— 鐵 鋼 ニ ュ ー ス —

昨年のがが国の貿易

通産省はこの程 30 年貿易白書 —昭和 29 年における日本貿易の現状— を発表した。貿易白書のうち総論の部を要約すれば次の通りである。

1. 29 年の外国為替収支は輸出 15.3 億ドルで前年より 3.7 億ドル増加、輸入 19.6 億ドルで前年より 1.4 億ドル減となり、手持外貨も 10.5 億ドルにまで回復した。
2. 決済通貨別にみると、輸出はドル地域が 4.86 億ドルで前年より 5 百万ドルしか増加していないが、ポンド、オープン地域では 5.1 億ドル、5.4 億ドルでそれぞれ前年より 1.9 億ドル、5.4 億ドルと大巾にふえている。一方輸入はドル為替が 11.3 億ドルで 1.1 億ドル増加、オープンが 4.8 億ドルで 1,005 万ドルの増加、ポンドは 3.5 億ドルに止まり 2.65 億ドルと大きく減少している。
3. しかし、国際収支好転の実体を見るとき前途楽観は許されない。日英貿易における英国経済政策の変化、欧州における経済復興の趨勢、極東事情を反映したアメリカの対日政策の変化等多分に政治的経済的僥倖に恵まれたことと、国内デフレ政策に圧迫されて投売が横行し輸出増進を強行せざるを得なくなつたことが輸出好調の原因である。
4. ガット協定に見られる如き英国経済圏の対日硬化や中ソ貿易伸長を契機とする西欧側との摩擦は、わが国貿易の行手の多難なることを思わしめる。
5. これら経済外的条件を別とすれば、わが国貿易の振興は一にかかつて基礎の浅いといわれる経済基盤の改善にある。従つて国内的には (1) 通貨価値の安定 (2) 産業基盤の強化 (3) 輸出入体制の整備による国際競争力の強化 国際的には (1) 経済外交の推進 (2) 売込み努力による市場の維持開拓が要請される。企業の技術水準の向上、経営の合理化、輸出競争力の増大を白書が強く国民に訴える所以も又ここにある。

国際見本市の開催

5 月 5 日から 18 日まで 2 週間をわたり、東京において国際見本市が開かれた。第 1 会場は大手町産業会館、第 2 会場は晴海埠頭特設館で、連日盛況をきわめた。会場にはわが国産業界の最高技術水準を示す代表的製品が出品され外国から出品された各種製品と妍を競つていたが、とくに機械関係の出品が数の上でも技術の上でもめだつて興味をよんだ。最近の機械業界は国際技術水準への到達をめざし業界をあげて努力して来たが、たまたま見本市で彼我の技術水準の優劣を国際的に問う機会を迎えたわけである。

八幡光製鉄所の発足

山口県光市旧海軍工廠跡 46 万坪の敷地に 47 億円の巨費を投じて、一昨年 10 月以来建設工事を進めていた八幡製鉄線材工場は、主設備ドイツ・ジーマグ社製最新式線材圧延機並びに東芝電気の手になる電気設備、港湾、運搬、倉庫、給水等附帯設備工事の総べてを完了、5 月 18 日光建設局から八幡製鉄光製鉄所と改称、正式稼働に移ることになった。

同設備は年間生産能力 20 万トンと云われるジーマグ社製最新鋭機で総べて自動化されており、その稼働は国内は勿論海外諸国の注目の的となつている。差当りの計画は月産 3,000 トン程度と云われ徐々に稼働率は引上げられるものと思われる。

なお初代所長には現建設局長取締役吉田実氏が任命された。

日本特殊鋼の新鋼種生産

日本特殊鋼では、この程強力磁石、NFW 7S と耐酸合金鋼の 2 つの新鋼種の生産を始めた。このうち強力磁石の新品種はこれまでの永久磁石を改善したものであり、耐酸合金鋼は全くの新鋼種である。2 つの新鋼種の特長性能は次のようである。

強力磁石 NFW 7S : これはこれまで同社が販売していた NFW 7 を改善したもので一層強力となり、外国品のアルコ V より 2 割方強力となつている。したがつてこれを使用すればポータブルラジオのスピーカーを一層小型化できた高級ラジオに使つても音質を改善できるという特長を持つている。

耐酸合金鋼 これはこれまでのモリブデン入 18-8 ステンレスに鋼を 5% 程度加えて硫酸に対する耐食性を高めたもので、これまで耐酸鋼としては高クロム鋼、18-8 ステンレスなどがあつたが、硝酸のような酸化性の強い酸には強いものゝ硫酸のような非酸化性の酸に対しては十分な耐酸性が得られなかつた。この点を改善しようとして新鋼種の研究を進めていたもので、150°C の 12% 硫酸水溶液に 48 時間、またこの液の温度を 35°C に上げてても完全に耐食している。このような耐食性をもつていので化繊用のノズルを初め、セロファン、人絹工業などに需要が開拓できるものと見られている。(以下 673 頁へつゞく)